飯田市歴史研究所ホームページ：http://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/

飯田市 歴研ニュース

News Letter No.90
The Iida City Institute of Historical Research

2017年10月3日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

第15回飯田市地域史研究集会を開催しました

特集　地域の歴史を描く

報告の様子

討論の様子

7月30日（日）に第15回飯田市地域史研究集会を飯田市役所にて開催しました。「地域の歴史を描く」をテーマに、地域の歴史を調べて書き記すこと、あるいは多様な形で表現することについて考えました。《セッションⅠ 地域の全体史を考える》と《セッションⅡ 自分史・歴史的景観から考える》に分け、6本の報告が行われました。来場者は88名、市内はもとより市外や県外からも多数ご参加いただきました。

セッションⅠの最初の報告、多和田雅保氏（横浜国立大学）「対話を通じて地域を描く―飯田での経験から―」では、『飯田・上飯田の歴史』の編集・執筆に携わった経験を踏まえ、地域史の叙述（研究報告や出版）を通して市民と対話を重ねることの意義などが述べられました。続いて、吉田治忠氏（中平区誌編纂委員会）「鼎中平区誌編纂にあたって」では、現在進行中の区誌編纂の現状と課題について、渡邉義昭氏（上郷公民館ふるさと学習教材編集委員会）「ふるさと学習教材を作るにあたって」では、今春刊行された小学生向け学習教材『久遠の文化うち立てん』の作成の経緯や今後の活用について報告されました。

セッションⅡの安岡健一氏（大阪大学）「「個」の歴史から地域を見る―「自分史」が問い直すもの―」では、自分史の系譜や地域史との関係、自分史叙述の場を確保することの重要性が述べられました。また、樋口貴彦氏（飯田市歴史研究所）「記憶としての景観」では、歴史的景観という視角の意義や、記憶と歴史（実体）の絡み合いについて報告されました。小平和夫氏「伊那市通り町一丁目商店街の街並み景観―街並み景観のミニチュア表現―」では、通り町商店街を対象としたミニチュアやしおり作りの実践について報告されました。

コカリナ演奏の様子

討論では、地域史と自分史や歴史的景観との関係、こうした取り組みがもつ意味などについて議論が交わされました。今回の成果は来年度刊行の年報にまとめる予定です。

なお、セッションⅡの前には、清内路コカリナをふきまい会のみなさまがコカリナを演奏し、会場を盛り上げていただきました。

歴史研究所の移転が完了しました

9月20日(水曜日)より通常どおり開所しております。お気軽にお立ち寄りください。皆様のご利用をお待ちしております。

〒395-0803 長野県飯田市鼎下山538(旧鼎東保育園)
TEL. 0265-53-4670　FAX. 0265-21-1173
※電話・FAX番号は変わりません。

車でお越しのお客様へ

南側の道路は、**7時30分から9時30分まで歩行者用道路**となっております。9時30分以降は通行可能ですが道幅が狭いので十分気を付けてお越しください。

飯田歴研賞2017 受賞者コメント

著作賞

相沢莉依 著『幸―幸運幸福に恵まれた平凡な人生』(私家版)

この度、飯田歴研賞2017年・著作賞を頂きまして、誠にありがとうございます。大変光栄そして皆様方の深いご厚情の賜物であると存じます。

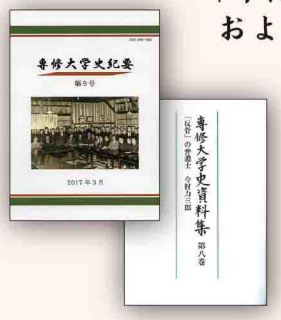
拙著のタイトルは「幸」と書いて、“こう”と読みます。“幸運、幸福”の“幸”です。60年の人生の中で、色々な方々に出会えたお陰で、幸運幸福に恵まれ、幸せな人生を歩んできました。これから皆様が幸せになるよう、自分のわずかな力を貢献したいと思います。

自分史ゼミに参加し、先生方の親切なご指導のお陰で、全編日本語で書き上げ、出版することができました。これからも沢山ボキャブラリーを増やし、日本語をもっと極めて色んな題材の作品を書きたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

(相沢 莉依さん)

奨励賞

瀬戸口龍一 著
「今村力三郎および蜂谷家と信濃国下伊那郡上飯田村について」『専修大学史紀要』第9号および『専修大学史資料集』第8巻「「反骨」の弁護士 今村力三郎」



幕末、上飯田村において庄屋も務めた蜂谷家に生まれ、弁護士として活躍した今村力三郎は、戦後の専修大学の発展を支えた中興の祖とも呼べる人物です。その今村の生誕150年を記念して、専修大学は展示や資料集の出版などを行いました。今回、そうした活動を評価いただき、奨励賞を受賞できたことを嬉しく思います。とはいえ、蜂谷家および今村力三郎の研究は端を発したばかりです。今村力三郎に関する史料をお持ちの方がいらっしゃれば、ご教示いただきたくお願いいたします。

(瀬戸口 龍一さん)

奨励賞

上郷公民館ふるさと学習教材編集委員会 編『久遠の文化うち立てん』

上郷の子どもたちに、生まれ育った上郷を『ふるさと』と呼んで欲しい。そんな思いから、素人の大人が2年かけて子どもたちに伝えたいこと、残したいことを素人なりに編集したこの本が、思わぬ賞を頂きましてありがとうございます。私事ではありますが、地域史研究集会におきましては、私の歴研近世史ゼミ時代の恩師多和田先生とご一緒でき大変嬉しく懐かしく思いました。

上郷公民館では、この編集委員を中心に『久遠の会』を作り今後活動していきます。歴史研究所の益々の発展をお祈りいたします。

(上郷公民館ふるさと学習教材編集委員会　渡邉 義昭さん)

新刊案内

飯田市歴史研究所年報⑮

昨年度の飯田市地域史研究集会の特集「飯田藩と地域社会」を中心に、地域史研究の成果を掲載しています。

飯田市歴史研究所 編
B5判 265頁
定価1,800円

【特集】飯田藩と地域社会
千葉拓真　近世後期の飯田藩政―その展開と課題
加藤みゆき　堀家旧蔵古書を中心とした飯田文庫の蔵書について
竹ノ内雅人　近世における飯田の学問と文化
―藩士・上層町人を中心に
多和田雅保　「飯田藩と地域社会」によせて
―都市史研究との関連で―

【小特集】田嶋一著『〈少年〉と〈青年〉の近代日本
―人間形成と教育の社会史』をよむ

【論文】
本島和人　松島自由移民送出と下伊那郡町村長会

【研究ノート】
清水迪夫　伊那自由大学受講生の社会階層
多和田雅保　遠山和田町の萬屋経営史料とはがき群について
齊藤俊江　伊賀良村の満洲移民
原英章　満蒙開拓青少年義勇軍の創設と関東軍の関わり

リレーミニエッセイ⑩

農村調査をめぐって

坂口 正彦（歴史研究所客員研究員・大阪商業大学経済学部専任講師）

なぜ農村の歴史を深く調べようとするのか。頭をよぎったのは、先行研究（先学）の存在である。ちょっと農村に入ったぐらいで気づくようなことは、すでに先行研究が指摘している。農村に深く入り込まないかぎり、新しい論点は生み出せないのではないかと考え、調査を進めてきた。

この点と関連して、自分が重要だと思う出来事だけを取り出してみても、その出来事がどういう構造のもと、どういう因果関係で起きたのかをみないと、その出来事を理解したことにはならないものと考える。構造や因果関係を特定するためには、深い調査が必要である。

深い農村調査をしつつ、一般性・普遍性が伴う研究にもっていきたい。その方法の1つは自らの調査事例を、一地域だけに生じた現象ではなく、社会の類型の1つを示していると発想することである。こうした発想のもと、自らの調査事例がいかなる条件・構造のもと生じたのかを探る。この条件・構造というものを解明すれば、同様の条件・構造のもとにある他の地域でも、同じような現象が生じているとの想定が可能になり、自らの調査地域と他の地域は、同じ類型の社会であるとの仮説が成り立つだろう。諸類型の全体は、調査を続けるなかで、修正を重ねつつ示していけばよいだろう。

もう1つの方法は、原理的な思考をめぐらせることである。私は不十分ではあるが、社会とは何か、共同体とは何かという問いを根底に置いて調査している。このような問いがあれば、時代や地域を越えて、社会や共同体に関心を持つ多くの人びととの対話が可能になるものと考える。面白い研究には、細かな実証の奥にかならず原理的な問いが存在する。

農村の歴史を深く調べようとするのはなぜか。調査地域に対して、客観性を保ちつつ特別な感情が芽生えるからである。調査地域に生きた人びとの苦労や喜びを未来に伝えたいとの思いが沸騰するからである。自らの調査が現在、及び未来の地域の人びとに役立つ時が来たならば、これほどうれしいことはない。飯田・下伊那は、私にとってもかけがえのない地域である。

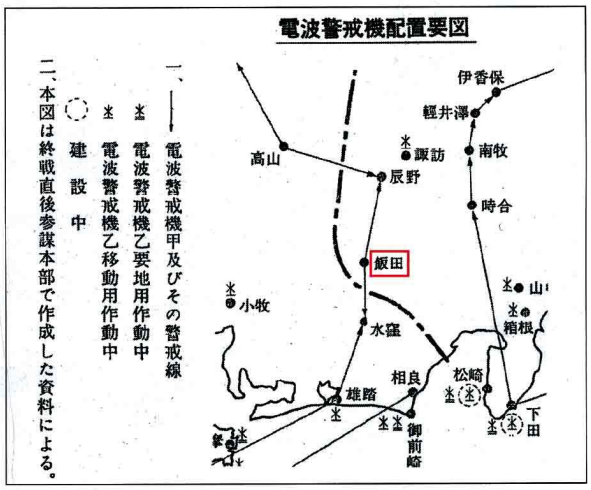
上郷原ノ城にあった陸軍の飯田対空監視哨

戦時中に上郷原ノ城の高台に、陸軍の監視哨があったことはわかっていましたが、軍の管理ということもあり、住民は近づくことができずその歴史は、今まで明らかにされてきませんでした。

今回この調査をしてみて、驚いたのは、民間の防空監視哨でやっていたような目視や聴覚による監視ではなく、内陸縦断的に張られた警戒線の一端を担う電波探知機を装備した監視哨であったということです。（下図参照）

この図に示されているように、飯田は日本海～太平洋に至る警戒線のほぼ中央に位置し、電波警戒機甲の発信基地であったことがわかります。（当時の警戒機甲は今のレーダーとは違い、発信地と受信地が分かれていた。）

高松通りから原ノ城を臨む



『戦史叢書⑲本土防空作戦』より

旧上郷村役場史料の中に、昭和19年5月に、当時の上郷村長が「中部軍施設用地」として地権者2名から土地を賃貸借した契約書が残されていました。聞き取りからは下士官を含め数名の兵士が常駐していたということもわかってきました。19年7月のサイパン陥落後は米軍のB29が本土上空に頻繁に来襲するようになり飯田の対空監視哨も緊張の連続であったと思います。

現在、かつての監視哨跡は、戦後の飯田大火後の復興のために大量の赤土が削り取られ、一面の住宅地や道路となっています。

（調査研究員 原 英章）

わが町の建築史ゼミ 参加者募集

講　師：樋口 貴彦（研究員）他
日／時：初回ガイダンス10月26日（木）・以降毎月第3木曜日／18：30～20：00
場　所：旧飯田測候所（飯田市馬場町3丁目411）
※歴史研究所 研修室（飯田市鼎下山538）で行う回もあります。

テーマ：くらしとすまい「伊那谷の住宅史」

多様性に富んだ地形に立地する伊那谷の町や集落。
そこに暮らす人々の営みを支えてきた住宅。住まいは時代を写す鏡。
老朽化やライフスタイルの変化から、住まい手のいなくなった住宅もあれば、そうした住宅を新たな住処とする若者たちもいる。
このゼミでは、豊かな自然と歴史的環境に恵まれた伊那谷の住まいに着目し、人々の住まい方の移り変わりと多様性を一冊の冊子にまとめます。
これからの住まい方、住処を見つけるために「伊那谷の住宅史」を顧みます。

※お申込み、詳細については歴史研究所までお問い合わせください。

歴研ゼミ＆ワークショップ 10月・11月の予定

受講生募集!! スタッフとともに歴史を学んでみませんか。

場所：歴史研究所 研修室（飯田市鼎下山538）

近世史ゼミ　担当：千葉拓真（研究員）
10月3日・17日／11月7日・21日（第1・第3火曜日）19:00～20:40

近現代史ゼミ　担当：田中雅孝（調査研究員）
10月14日／11月11日（第2土曜日）10:00～11:40
※10月28日／11月25日は地域史講座と合同で行います。

満洲移民研究ゼミ　担当：本島和人（調査研究員）
第74回 10月7日／第75回 11月4日（第1土曜日）10:00～11:40

地域史（川路）ゼミ　担当：羽田真也（研究員）
10月11日・25日／11月8日・22日（第2・第4水曜日）18:30～20:40
※地域史（川路）ゼミは、毎回川路公民館2階視聴覚室で行います。

New わが町の建築史ゼミ　担当：樋口貴彦（研究員）
初回ガイダンス 10月26日／11月16日（第3木曜日）18:30～20:00
※わが町ゼミは、旧飯田測候所（飯田市馬場町3丁目411）で行います。
（歴史研究所 研究室で行う回もあります。）

思想史ワークショップ　市民の皆さんが自主的に学び合う場
10月4日・18日／11月1日・15日（第1・第3水曜日）19:00～20:40

自分史ワークショップ　市民の皆さんが自主的に学び合う場
10月28日／11月25日（第4土曜日）14:00～15:30

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。 TEL：0265 - 53 - 4670

開所時間：午前9時～午後5時
休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日

飯田・上飯田の歴史シリーズ第5回

地域史講座

大正期・飯田町の都市問題と行財政

大正期の飯田町は近代化にともなう人口急増により、伝染病などの衛生環境の深刻化、さらに小学校拡充や町立飯田商業学校の創設などの教育課題も求められました。飯田町はこうした都市問題にいかなる対応をとり、地方自治を発展させたのでしょうか。

開催日：**10月28日（土）**
時　間：14：00～15：45
講　師：田中 雅孝（歴史研究所 調査研究員）
会　場：飯田市役所 C棟3階会議室（飯田市大久保町2534）

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。お気軽にお越しください。

地域史講座

伊賀良村の満洲移民 ～渡満者の少なかった村を見る～

下伊那郡内から満洲開拓に行った人は人口比率4.5%、伊賀良では2.8%、当時村内でどんな動きがあり、村長などは国策をどう受け入れたのでしょうか。区ごと渡満先を義勇軍も含めて分析してみます。

開催日：**11月25日（土）**
時　間：14：00～15：45
講　師：齊藤 俊江（歴史研究所 調査研究員）
会　場：伊賀良公民館1階 第一会議室（飯田市大瀬木570-1）

※参加費や事前のお申し込みは必要ありません。お気軽にお越しください。